



Exhibition

TOKYO

5.12-18

YAMAGUCHI  
SHUNAN

5.26-6.4

HOKKAIDO  
HIGASHIKAWA

11.27-12.12

制作 / 林忠彦事務局(周南市美術館) <http://hayashi-award.com>



有元 伸也 SHINYA ARIMOTO

TOKYO CIRCULATION

第26回林忠彦賞は  
有元伸也氏「TOKYO CIRCULATION」に決定しました。  
(詳細は中ページへ)

主催 / 周南市文化振興財団 共催 / **KRY**山口放送  
後援 / 読売新聞社 協賛 / 富士フイルム株式会社

第26回  
林忠彦賞  
受賞記念写真展

# 林忠彦賞はこんな賞。

— 社会は心を撃つ写真をさがしています —

山口県周南市出身の写真家林忠彦の名を冠した「林忠彦賞」は、林忠彦が「太宰治」「坂口安吾」などの作品で戦後の写真界に颯爽と躍り出た、最もエネルギッシュな時代に照準を合わせ、社会が求める、その時代を一番象徴する写真を選び出そうをコンセプトとしています。1991年(平成3)故郷である周南市と周南市文化振興財団が創設、今回で26回を数えます。

大石 芳野 [写真家]  
笠原美智子 [東京都写真美術館事業企画課長]  
河野 和典 [(公社)日本写真協会出版広報委員、日本カメラ社編集顧問]  
細江 英公 [写真家、沼里フォトアートミュージアム館長]・選考委員長  
有田 順一 [周南市美術博物館館長] (敬称略・五十音順)



林忠彦  
Tadahiko Hayashi  
[1918-1990]

山口県周南市出身。報道カメラマンとしてスタートし、人物写真、風景写真を撮り続けました。銀座のバー、ルパンで撮影した「太宰治」、原稿用紙に埋もれた「坂口安吾」、戦後の東京の姿をとらえた「カストリ時代」などが知られています。一方で秋山庄太郎らと二科会に写真部を創設するなどアマチュア写真家の育成にも力を注ぎ、生涯を通じて写真文化の発展に力を注ぎました。

左「太宰治」 右上「坂口安吾」  
右下「煙草をいゆらす戦災孤児」(カストリ時代より)



## 第26回林忠彦賞受賞作

# 「TOKYO CIRCULATION」を知ろう。

第26回林忠彦賞は、94点の応募作品の中から厳正な審査の結果、有元伸也さんの「TOKYO CIRCULATION」に決定しました。

作者は、チベットの遊牧民を捉えた「西藏より肖像」で1998年に優れたドキュメンタリー写真の登竜門といわれる第35回太陽賞を受賞した。これと時期を前後して大阪から東京に居を移したが、チベットと比べた時に、東京という都市の利便性を享受する人々の姿は被写体として少し物足りなさを感じたという。しかしよく目を凝らし東京の街を観察すれば、そこには都市と共存しながらたくましく生きる人々の姿が見えるはずと思い直し、時間を作っては主として新宿を歩き、都市と共存しながらたくましく生きる人間の姿をカメラに収めてきた。

都市に生きる生物としての人間の姿を追い求める日々を続け、2006年から自らの名を冠した「ariphoto」として発表を続けてきた。それから10年、その仕事を「TOKYO CIRCULATION」として発表したのが本作である。作者の目に映る東京は壮大な循環を持つ一つの生態系であり、作者が、被写体となる人たちとコミュニケーションをとりながら撮影した作品の数々は、重厚感あふれる中にも、大変人間的であり、作品の持つ圧倒的なエネルギーは選考委員会でも高く評価された。

### 「選考委員講評より」

「東京中を駆けめぐり表現するそのスナップ術、ダイナミズム、構成力は、圧倒的に素晴らしいものでした」「一点一点の作品から出てくるエネルギー、それから全体の作品群から立ち上がるエネルギー、これが他を圧していました」「写真集を開いた瞬間、力強さに引き付けられます。被写体になった人と有元さんがコミュニケーションをとっていることで、見る人を写真に引き付けるのだと思います。この大都会に流されまいとする人たちのエネルギーが伝わってきます」「フィルムをつかい、現像し、それを自らプリントするスタイルから生み出されるモノトーンは、あますところなく東京の“今”を捉えています。あくまでもフィルムの可能性を信じ、高い精神性をもって制作されている姿には、思わず感服するところです」「これはなかなか重厚感のある作品です。やはり重みのある、じっりとした作品というのは時代を超越して長く残ります」



### 有元 伸也 プロフィール

1971年大阪生まれ。ビジュアルアーツ専門学校大阪卒業後、インド、チベットに撮影旅行に赴く。1998年「西藏より肖像」で第35回太陽賞受賞。東京に居を移してからは、東京、中でも新宿を歩いて、都市と共存しながらたくましく生きる人間の姿をカメラに収めてきた。2008年自身の作品発表の場としてTOTEM POLE PHOTO GALLERYを設立、自らの名を冠した「ariphoto」として作品の発表を続けている。現在は東京を拠点に国内外での個展やグループ展を精力的に開催、参加している。

第26回林忠彦賞最終候補作品 [敬称略・五十音順]

有元伸也「TOKYO CIRCULATION」 筋野健太「長春 2006-2015」  
蔵 真墨「Men are Beautiful」 鶴崎 燃「海を渡って」

名越啓介「Familia 保見団地」 藤岡亜弥「川はゆく」  
林 典子「ヤズディの祈り」

# 受賞記念 写真展へ 行ってみよう。

## 1 東京展 [富士フィルムフォトサロン]

5/12[金] - 18[木] 会期中無休  
10:00-19:00(最終日16:00まで)

東京都港区赤坂9-7-3 東京ミッドタウン  
フジフィルム スクエア  
TEL:03-6271-3351 <http://fujifilmsquare.jp/>

※東京フォトギャラリー連絡会の申し合わせにより、祝花は堅くお断り申し上げます。

観覧  
無料

## 2 周南展 [-林忠彦の生誕地にある-周南市美術博物館]

5/26[金] - 6/4[日] 月曜日休館  
9:30-17:00(入館は16:30まで)

会期中は林忠彦記念室を含む常設展も無料でご覧いただけます。

山口県周南市花島町10-16  
TEL:0834-22-8880 <http://s-bunka.jp/bihaku/>

観覧  
無料

### 有元さん来館イベント [参加無料]

#### 作品解説

5/26[金] 9:30からの開会式終了後(申込不要)

#### トークショー「都市の路上を観察する」

5/27[土] 10:30~

話し手 有元 伸也

聞き手 有田 順一(周南市美術博物館館長 林忠彦賞選考委員)

会場 / 周南市美術博物館ハイビジョンギャラリー

定員 / 40名(先着順) 電話でお申し込みください(0834-22-8880)

## 3 東川展 [写真の町 東川町文化ギャラリー]

11/27[月] - 12/12[火] 会期中無休  
10:00-17:30(最終日15:00まで)

入館料 / 町民100円(10人以上団体80円)  
町外200円(10人以上団体160円)  
中学生以下無料

北海道 上川郡東川町東町1-19-8  
TEL:0166-82-4700 <http://photo-town.jp/>